

DX環境づくりに注力 建コン協九州支部が定時総会



建設コンサルタンツ協会の九州支部（田中清支部長）の2023年定時総会が18日、オリエンタルホテル福岡であり、建設コンサルタンツの一層の魅力向上に向けた総合的

な環境整備や、技術力と品質の確保・向上の促進など今年度の事業運営方針を確認した。田中支部長（第一復建）は「インフラDXの推進に大切なのは、中小を含め建設業に連する全ての方が活用できる環境づくりだ」と強調。データプラットフォームの構築や歩掛の改定などを国等に求めるほか、産学による人材育成に向けた勉強会を引き続き開

催するとした。便益向上の一層の促進では「会員のリットを追求する」という強い意志のもとで取り組んでいく」と決意した。

23年度運営方針の柱5項目は前年度と同じ。部会・委員会活動として、データベースの構築やメディアによる広報活動（ラジオ番組等への企画を検討・実施）などを新規に盛り込んだ。九州地方整備局・各県政令市との意見交換会や技術講演会、女性技術者交流会、現地見学会、各種講習会、情報セミナーなども例年どおり実施する。会員数は、22年度にアジア技術コンサルタンツ（鹿児島市）と吾水総合コンサルタンツ（北九州市）が入会。退会は無く、支社会社52社、本社会社

105社の計157社となった。本社会社の所在地別の内訳は、福岡41社、佐賀7社、長崎3社、熊本10社、大分20社、宮崎14社、鹿児島9社、沖縄1社。